

あくていぶ21 青木 啓文 議員



- ①西部地域の都市基盤整備について
- ②鈴鹿市農業振興策について
- ③歴史的資源を活用したまちづくりについて

質問① プロジェクト事業の内容と現状、これからの取組の課題は。土地利用と道路整備方針について、整備課題の解決にむけての具体的な施策は。

答弁① リニア新幹線、第2名神等の交通網整備促進を関係機関と連携しながら進め、「自然・農業と共生した広域交通連携のまち」を目指し、道路機能の強化と、都市的な土地利用を誘導していきたい。

質問② 西部地域の特産物である花木・花き・茶・養鶏の現状とこれからの振興策は。

答弁② 景気回復で上昇しているものもあるが、依然として生産者には厳しい状況である。今後は生産者団体と連携し必要に応じて支援したい。また、新品種等のマスコミへのPRや付加価値の高い新商品開発への取り組み等についても連携し進めたい。

質問③ 鈴鹿「花と歴史の遊歩道」について、佐佐木信綱記念館耐震施工の進捗状況は。県史跡・白鳥塚古墳の環境整備事業の内容と進捗状況・課題は。

答弁③ 記念館について、本年度は耐震補強の実設計業務を委託し、来年度施工を予定。白鳥塚は来年度、県補助事業として保護措置の強化、史跡の境界杭や説明板の設置を検討している。今後、魅力ある環境整備を進め、観光資源としても活かしたい。

すずか倶楽部 後藤 光雄 議員



- ①清掃センターごみ投入方法について
- ②学校給食の残飯処理について

質問① 清掃センターへの事業ごみ搬入の際のごみ投入者の安全確保の為に、ダンピングボックスの使用拡大と設備の充実をお願いしたいが。



答弁① 一般ごみ搬入者との現場の状況に応じた柔軟な対応と、危険回避する施設設置を検討する。

質問②(1) 学校給食の残飯の量の把握はできているか。

答弁②(1) 学校により米飯・パンの残飯量が把握出来ていないところがあるが、今後把握していく。

質問②(2) 残飯の処理について、堆肥化することで、自然界の循環システムに重ねて教育利用して欲しい。

答弁②(2) 平成20年に稼動する新給食センターでは、環境教育や食育の取組に活用出来るよう生ゴミ処理する堆肥化システムの導入を間に合わせたい。

質問②(3) 残飯が減るという米飯の自校炊飯の導入は考えられないか。

答弁②(3) 自校炊飯方式を行うことは、設備面、経費面、人的配置の面で非常に難しい。

政友会 市川 哲夫 議員



- ①鈴鹿市の緑化について

質問① 鈴鹿市の緑化施策の考え方及び取組みは。公園等の維持管理の現状は。街路樹の管理をどのように行っているのか。

答弁① 鈴鹿市においては平成18年4月に「緑の基本計画」を策定し鈴鹿市の緑の現状や緑のはたらきを踏まえ、環境と共生し、緑が豊かで潤いのあるまちづくりの実現をめざし、「骨格となる緑地の保全」、「緑の拠点となる公園の整備・確保」、「緑の空間とそのネットワーク化」、「市民参加による緑の推進」という4つの方針を掲

げており、本計画のテーマである「緑あふれる心やすらぐまち鈴鹿」の実現を市民の皆様のご協力とともに推進している。公園の維持管理は市内に250箇所を超える公園があるが、規模の大きな公園については、樹木の選定及び除草については業者等に委託し、小規模なものについては地元自治会に委託し管理頂いている。街路樹については道路整備事業や大規模開発により整備された街路樹を専門の造園業者と管理業務委託契約を結んで、主に春から秋にかけ低木剪定を、冬季には高木の剪定を必要に応じて行っている。下枝などの通行障害などは、夏季にも剪定を行っている。